

GSJ 地質ニュース

GSJ CHISHITSU NEWS

— 地球をよく知り、地球と共生する —

2016

3

Vol.5 No.3



特集：超伝導重力計のフィールドでの活用

3月号

特集

超伝導重力計のフィールドでの活用

口絵 67-68

第4世代超伝導重力計が日本に初登場, 苫小牧で計測開始

池田 博・杉原光彦・名和一成・西 祐司

口絵 69-70

世界でいちばん海に近い超伝導重力計で海面変動をみる

名和一成・杉原光彦・池田 博

口絵 71

フェリーからの風景, 苫小牧と本州最東端の鮭ヶ崎

杉原光彦・山口 靖

72-75

高感度重力モニタリングのための超伝導重力計の導入

杉原光彦・西 祐司・名和一成・宮川歩夢・

石戸恒雄・相馬宣和

76-79

重力モニタリングの要諦

杉原光彦

80-83

絶対重力計測の現場から—屋外計測・輸送編— 杉原光彦

84-94

堆積物の磁化を測ってわかる(知りたい)こと

—旧石油公団が「南極地域石油天然ガス基礎地質調査」
(FY1980-1999)で取得した海底堆積物コアの再測定から—

森尻理恵・中井睦美・上野直子・荻島智子

95 新刊紹介「地球惑星科学入門 第2版」

96 GSJ 交差点

Cover Page



Rausu Volcano and Keramui Peninsula in Kunashiri Island
seen from Notsuke Peninsula, eastern Hokkaido.
(Photograph and caption by
Futoshi NANAYAMA and Kazuaki WATANABE)

野付半島から見た国後島の羅白山とケラムイ崎

国後島は根室海峡に面し、野付半島から僅か17 kmの距離しかなく、幕末以来、日本固有の領土とされてきた。しかし第二次世界大戦後は、ソビエト連邦およびロシアの実行支配下であり、未だ返還の目途は立っていない。この島には複数の活火山が存在しており、特に羅白山(標高888 m; 写真中央背後)は島の中央部に位置し、明治時代に2度にわたり噴火したことが知られている。一方、島の南西端にあるケラムイ崎(写真中央右)は野付半島同様に明瞭な複合砂嘴の形状を示す。この間の海峡は水深10~30 m以浅と浅く、マンモスの臼歯化石が泥炭の塊と共にしばしば漁師の網によって引き上げられており、最終氷期には湿原であったと考えられている。

(写真・文: 七山 太¹・渡辺和明²)

¹産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門, ²同 地質情報基盤センター)